

令和5年度 市長記者会見 発言要旨

令和6年3月22日(金)開催分

< 開催時間 > 14:00~14:50

< 会場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 令和6年度定期人事異動
福井市情報発信プロデューサーの公募
「福いいネ!くん」の昇任及び新キャラクター「福いいヌ!くん」の登場

< 出席者 > 市長、副市長、総務部長、職員課長、新幹線プロモーション課長

< 質疑応答 >

【記者】

公募する情報発信プロデューサーは、広報プロモーション課での勤務になるのか、また、民間のノウハウを取り入れることで福井市の情報発信がどう変わるか教えてください。

【市長】

プロデューサーは市長公室付として考えていますが、広報プロモーション課に所属することになると思います。政策部門や秘書課との関係もあるので、機動的に動いていただけるよう、採用が決まればその方としっかり話をする必要があると思います。

どこが変わるか、福井市の職員ではできないかという議論もあると思いますが、我々とする角度が違うことを期待し、市民に伝わる情報を提供したいと考えています。新幹線開通を迎え、市の情報発信が重要となる中で、民間の力を借りて市のプロモーションを強化したいと思っています。

【記者】

プロデューサーには、表に立つよりも裏方としてしっかりと戦略を担うことを期待しているのですか。

【市長】

広報官のように表に立って発信するのではなく、我々に具体的なアイデアや戦略を提供していただき、実現できる方法を示してもらうことが重要です。記者会見などに立つことは少ないと考えています。

【記者】

プロデューサーは県外へのプロモーションに限らず、市民向けの情報発信を含め、幅広い活動を担当することになるのですか。

【市長】

その通りです。広報プロモーション課は市民との関係が非常に重要であり、福井市の取り組みを市民に理解してもらうことが目標です。また、市外県外にも福井市の情報を伝えることが重要であり、プロモーション活動を通じて福井の魅力を発信していただきたいと考えています。

【記者】

こども未来部が子供たちにどのような役割を果たすのか教育委員会との棲み分けについて教えてください。

【市長】

子供関連の行政はすでに進められています。こども未来部は子供を中心に据えて市政運営の方針を市民に示す役割があります。子供真ん中社会の実現を目指し、こども未来条例の制定なども進めています。

【記者】

部活動の地域移行に関して、こども未来部や教育委員会など、どの部署が担当するのか教えてください。

【市長】

部活動の地域移行は教育委員会の管轄で進められています。部活動は学校教育の一環であり、今後の影響も考慮して進めていく必要があると考えています。

【記者】

プロモーションの重要性についてですが、市民目線でわかりやすく広報活動を行うことが、市民の市に対する愛着を醸成し、市の定住を促進するための取り組みと捉えてよろしいでしょうか。

【市長】

広報活動はこれまで十分に行ってきたものの、市民目線からのアプローチやプロの力を活用してさらに改善していきたいと考えています。取り組みについてはおっしゃるとおりです。

【記者】

組織機構の改正は北陸新幹線の開業に関連しているのでしょうか。それとも別の理由があるのでしょうか。

【市長】

この改正は選挙戦の時から考えていました。市民に私たちの取り組みが十分に伝わっているかどうかを確認するため、様々な場所を訪れて意見を聞いてきました。組織の改正は、新幹線開業に直接的な関連はなく、私が市長になった場合には行おうと思っていたものです。

【記者】

市民に市の意図を知ってもらい、市民の意見も取り入れるための取り組みということでしょうか。

【市長】

その通りです。

【記者】

能登半島地震被災地への職員派遣について、被災自治体の要請に基づいて行われたものなのでしょうか。具体的な要請内容や市長としての期待、人選の基準について教えてください。

【市長】

被災地では人手不足が深刻で、多くの職員が避難所支援などで活動しています。福井県からの要請を受け、事務職と技術職の職員 1 名ずつを派遣することになりました。福井市は技術者も豊富におり、人員調整が可能なため、このような派遣が決定されたと考えられます。

【記者】

新しい市政運営を本格化させる中で、北陸新幹線の開業もあります。今後の福井市の実現について、お聞きします。

【市長】

議会中にも申し上げてきた通り、予算は 12 月 23 日から始まり、私の思いを反映したものもあります。例えば、高齢者をひとりぼっちにしないための生活支援や木造住宅の耐震の取り組みなどです。予算が限られている中で、今後は予算を活用しつつ、ビジョンを実現するための組織体制を整えていきます。ただし、単に組織を変えることが目的ではなく、ビジョンを実現するための手段として改革を行っています。

【記者】

定期人事異動で特に重視しているポイントはありますか。

【市長】

全て重要だと考えています。細かい部分は議論が必要ですが、今回の組織改革や人事は、より良い未来を描きながら行っています。

【記者】

子供関連の部署を1つにまとめることで、どういう風に連携していけばいいと考えていますか。

【市長】

市民が求める支援や解決策がわかりやすくなると思います。また、子供政策は横の連携が重要なので、部署内での議論や協力が増えるでしょう。さらに、こども未来部としての理念を示すため、仮称ですがこども未来条例を作成することも考えています。私も深く関与しながら、子供たちの未来を支える取り組みを進めていきたいと思っています。

【記者】

情報発信プロデューサーの機能や福井市の広報方法について教えてください。

【市長】

採用する際には意外な人物に期待しており、専門の人材発掘業者から情報を得たいと考えています。従来の広報方法とは異なる新しいアプローチを模索していきたいと思っています。これまでの広報手法には疑問を感じており、選挙活動中も情報を伝えることの重要性を感じたため、SNS など様々な手段を通じて広報を行っていきたいと考えています。

【記者】

福いいネ!くんの功績と今後の展望について教えてください。

【市長】

福いいネ!くんは長らく係長を務め、最近は大活躍しています。彼の活躍により認知度も上がり、課長に昇進させることとしました。また、新キャラクターについては、福いいヌ!は愛嬌があるため、福いいネ!くんと組み合わせでさらなる注目を集めて欲しいと期待しています。

【記者】

新しい2人組について、どのような活躍を期待していますか。

【市長】

福いいネ!くんと福いいヌ!の組み合わせで、かわいらしさと愛嬌を備えたキャラクターとして活躍してほしいと期待しています。

【記者】

情報発信プロデューサーの仕事は、市民への情報発信と全国への情報発信の比率はどのようなものですか。

【市長】

半々です。力を入れる方を選ぶわけではないですが、採用する人によって微妙に異なるかもしれません。